

講中お知らせ 4月号

発行人桐本昌吾 / デザイン玉置實 * 記事・画像の copy・download 転載引用等は禁じます。法華講宝相寺支部「講中お知らせ」編集室 0739-22-2232

■日如上人御指南
 折伏を行ずるに当たって大事なことは種々説かれておりますが、その根本となるものは慈悲であります(中略)
 御本仏の廣大深遠なる大慈大悲を我が身に移し、一途に相手の幸せを願う一念に徹して励むことが肝要であります。
 この一念がないと「慈無くして詐(いつわり)親しむは彼が怨なり」の譏(そしり)を受けることとなります。(大白法・平成二十二年一月一日号)

〇折伏こそが真の慈悲行
「自行若し満つれば必ず化他有り。化他は即ち是れ慈悲なり」(御書文段二一九 総本山第二十六世日寛上人 観心本尊抄文段)
 慈悲心から、相手の幸せと成仏を願い、謗法の恐ろしさを教える。そのように振る舞い、人々を正法に導き帰依せしめるのが真の折伏・慈悲行。

〇“正直”の南無妙法蓮華経を“正直”に実践する
『正直の人の頂(いただき)を以て栖(すみか)と為し』(御書 1548)
 正直な人の頭(こうべ)に宿り、その人を守護する。

「法華経計りこそ正直の御経」(法門申さるべき様の事 434)
 「経々宗々を抛(なげう)ちて、一向に法華経を行ずるが真の正直の行者にては候なり」(下山御消息 1139)
 法華経は方便を一切帯びない真実の教え正直の教えである。一切の謗法を捨てて、法華経のみを信じ行ずる者こそ「正直の人」であり、諸天の加護を受ける。

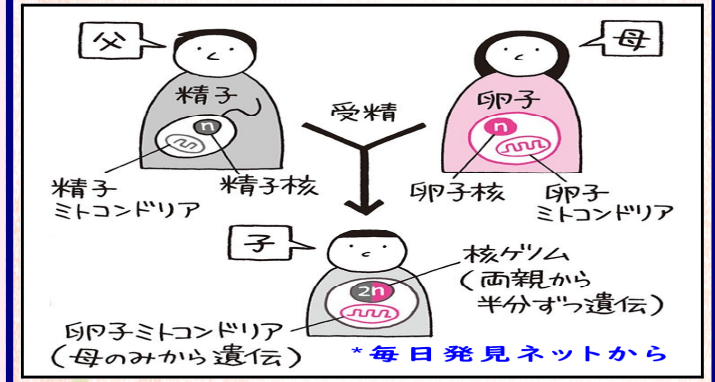
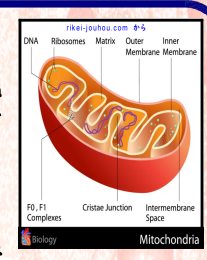
「今末法にして正直の一道を弘むる者は日蓮等の類に非ずや」(御義口伝 1733)
 〇末法に信じ行ずる法華経は、寿量文底下種の南無妙法蓮華経。

本宗僧俗だけが「正直の一道」である本門戒壇の大御本尊への信心を正しく弘める使命がある。
 世上混乱の今こそ、正直の教えを正直に実践し、広布に向かって大前進しましょう。
 □まとめ 「折伏前進の年」も早三カ月半、今月は立宗会の月です。
 宗旨建立以来、“一切衆生の口に妙法を入れる”という大聖人の大慈大悲のお振る舞いを拝し、私達も一人でも多くの人に、この妙法を唱えさせるべく折伏に立ち上がりましょう。諸天の加護のもと、あらゆる障魔に打ち勝ち必ず誓願を成就していく、これを強く決意いたしましょう。

令和六年四月度 御報恩御講
『諫曉八幡抄』 弘安三年十二月 五十九歳
 今日蓮は去ぬる建長五年(みずのと・うし) 四月廿八日
 より、今弘安三年(たいさい・かのえたつ) 十二月にいたる
 まで二十八年が間又他事なし。只妙法蓮華経の七字五字を
 日本国の一切衆生の口に入れんとはげむ計りなり。此即ち
 母の赤子の口に乳を入れんとはげむ慈悲なり。(御書一五三)

【通釈】今日蓮は、去る建長五年癸丑(みずのと・うし)四月二十八日より、今、弘安三年太歳庚辰(かのえたつ)十二月にいたるまで二十八年の間、また他事はなく、ただ妙法蓮華経の七字五字を日本国の一切衆生の口に唱えさせよう。と励むばかりである。赤子の口に乳を母親が含ませ慈母(と)同

■命は甦生している
 人類の遺伝子は他説も多いが「ミトコンドリア・イブ」と呼ぶアフリカの一人の婦人らしい。その地理的環境から民族や肌の色に差異がある。この世界は人それぞれに境涯があり「十界」のように多相世界である。そして「ミーム」や「量子」などの見え無い、理の世界も重ねて積まれている。
 このような世界に「一切衆生の命」が「生死」を超えて皆つながっている「妙法の命」の世もある。生は死であり、すべての終わりはすべての始まりである世界。この「妙法の命」の世界を覚知し、生きられたのが大聖人様である。
 ですから大聖人様は法華経の文底を覚知なされた仏聖人(ほとけ-しょうにん)なのです。



■「六道四生は一切衆生は皆父母なり。(法蓮鈔 815) 更に「されば昔は 一切の男は父なり 女は母なり。然る間 生々世々(しょうじょう-せぜ/命の連続性)に皆恩ある衆生なれば 皆仏になれと思ふべきなり。」と説く。(上野殿御消息 92)



■「一切衆生の生命」は「生々世々(しょうじょう-せぜ)」に展開する仏の命であると覚知なされた。己の命の父母は、実は遠くには一切衆生の父母である。「命」は循環し、皆兄弟であり「縁者」である。と説く。
 ■父母の無い、先祖の無い命は一つとして無い。大聖人が産まれ、生き、生かされてきた、この展開する「一切衆生の命」の正体を、「妙法の命」と大聖人様は覚知なされた。

■人が「己の命」を少し知れば世界はグットと頭わになる。そして進むべき人生の道がスツと開ける。人はそこに「三毒の命」を「変毒為樂」できた仏智(妙法の命)を手にするのである。この「妙法の命」がカラッポでは、例え百歳の翁であっても意味のある人生を生きてはいないのだ。

■「妙法の命」から「皆仏になれ」と願う。ここに仏法の先祖回向・供養がある。宝相寺では塔婆供養として営まれている。自宅では、御本尊様に供物を整え存分に供養せよ。されば自然(じねん)に「三毒の命」が不思議にも浄められ、外道に堕ちてカルト宗教に堕ちる事は無い。

■この「皆仏になれと思ふべきなり。」の回向は信仰から出発する「仏道」のスタートである。この道を善く進めば自他の「妙心」を「成仏」に進める。現の世界を平和に導く。それが先祖回向・供養から始まる大聖人様の誠の仏法である。/礼拝

***折々のお経廻り展開中 (*^_^*)**